

呼吸器内科の研修について

当院の呼吸器内科診療は①切除不能新後期肺癌の診断と治療が中心になります。呼吸器疾患の診断においては、胸部画像所見、特に CT (HRCT) の読影力を養うこと、さらには気管支鏡手技を習得することが必要不可欠になります。専攻研修においてはこれらのことを重点に指導していきます。特に肺がんの治療においては、肺がん診療ガイドラインを基本としますが、高齢者、臓器障害などの合併症を有する場合など現場で直面する様々な局面に対する問題解決能力を身につけていけるよう指導します。特に肺がん治療は分子標的治療や、免疫チェックポイント阻害剤を使用した治療など、大きく進歩しており、これらの最新の治療も学ぶことができます。

気管支鏡の手技は、基本的手技から超音波を使用した手技など最先端の技術の習得も可能です。

担当患者については週 1 回のカンファレンスで、スタッフ全員で問題点と地治療方針の確認を行います。また、そのほかに毎週 1 回呼吸器外科とのカンファレンスが行われます。そのほか、専門性の高い、間質性肺疾患の診断と治療、慢性閉塞性肺疾患の診断と治療にも力を入れています。

研修責任者 太田智裕

研修指導医 太田宏樹